

令和4年度第2次補正予算行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	国立研究開発法人理化学研究所施設整備に必要な経費			担当部局	研究振興局	作成責任者				
事業開始年度	平成15年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	基礎・基盤研究課	基礎・基盤研究課長 西山 崇志				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	国立研究開発法人理化学研究所法第16条			関係する 計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)					
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	科学技術に関する試験及び研究等の業務を総合的に行うことにより、科学技術の水準の向上を図るため、理化学研究所の設置する研究所施設の整備充実を図る目的で、研究所が行う研究所施設の整備に要する経費に対し補助を実施する。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	我が国唯一の科学技術全般を総合的に行う研究機関として、物理学、化学、生物学、医科学等の幅広い研究分野を対象に、国家的・社会的ニーズを踏まえた戦略的・重点的な研究開発、世界トップレベルの研究基盤の整備・共用・利用研究及びパラダイム転換をもたらすような創造的・挑戦的な先端融合研究等を実施する理化学研究所に対し、必要な研究所施設の整備に要する経費の補助を行う。【補助率：定額補助】 老朽化対策、安全対策等を含め、施設の改修・更新・整備を重点的・計画的に実施する。									
実施方法	補助									
予算額・ 執行額 (単位：百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	2,593	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-
		補正予算	1,869	1,980	3,575	4,022				
		令和4年度 第2次補正予算				4,022				
		前年度から繰越し	478	2,702	3,471	3,575				
		翌年度へ繰越し	▲ 2,702	▲ 3,471	▲ 3,575	-				
		予備費等	-	-	-	-				
		計	2,238	1,211	3,471	7,597				
	執行額	2,230	1,211	3,471						
	執行率 (%)	100%	100%	100%						
	当初予算+補正予算に対する 執行額の割合 (%)	50%	61%	97%						
令和4年度第2次 補正予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	令和4年度 第2次補正予算	主な増減理由							
	国立研究開発法人理化学 研究所施設整備費補助金	4,022								
	計	4,022								

活動内容 (アクティビティ)		既存の研究施設及び中長期目標期間中に整備される施設の有効活用を進めるとともに、高経年化対策を含め、施設の改修・更新・整備を計画的に実施する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
		施設の維持整備	施設の整備件数	活動実績	件	13	5	3	-	-
当初見込み	件			19	8	9	10	-		
単位当たりコスト		算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
		国立研究開発法人理化学研究所の事業を実施する上で必要な施設整備費補助金のため、単位当たりコストの算出は困難		単位当たりコスト	-	-	-	-	-	-
				計算式	-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 3年度	目標最終年度 -年度
		独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果のうち、施設・設備に関する計画の項目において、標準評価以上の評価を受けた項目の割合とする。 注：各年度の成果実績は翌年度、評価確定後に記載	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。 注：各年度の成果実績は翌年度、評価確定後に記載	成果実績	%	100	100	100	100	-
				目標値	%	100	100	100	100	-
				達成度	%	100	100	100	100	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		独立行政法人評価資料より記入。								
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 3年度	目標最終年度 -年度
		長期的視野に立った整備計画を策定し、施設・設備整備を推進する	施設整備が計画通り進むこと	成果実績	件	13	5	3	-	-
				目標値	件	19	8	9	-	-
達成度	%			68.4	62.5	33.3	-	-		
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		理化学研究所からのヒアリングにより記入。								
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	7 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策 9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応								
	政策評価	7-1 価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成 9-1 未来社会を見据えた先端基礎技術の強化 9-2 環境・エネルギーに関する課題への対応 9-3 健康・医療・ライフサイエンスに関する課題への対応	政策評価書 URL	<7-1> https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_7-1.pdf <9-1> https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_9-1.pdf <9-2> https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_9-2.pdf <9-3> https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_9-3.pdf						
	該当箇所		<7-1>5ページ、<9-1>3ページ、<9-2>4, 5ページ、<9-3>9ページ							
新経済・財政再生計画改革工程表	取組事項	分野:	-							
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:								
		該当箇所								

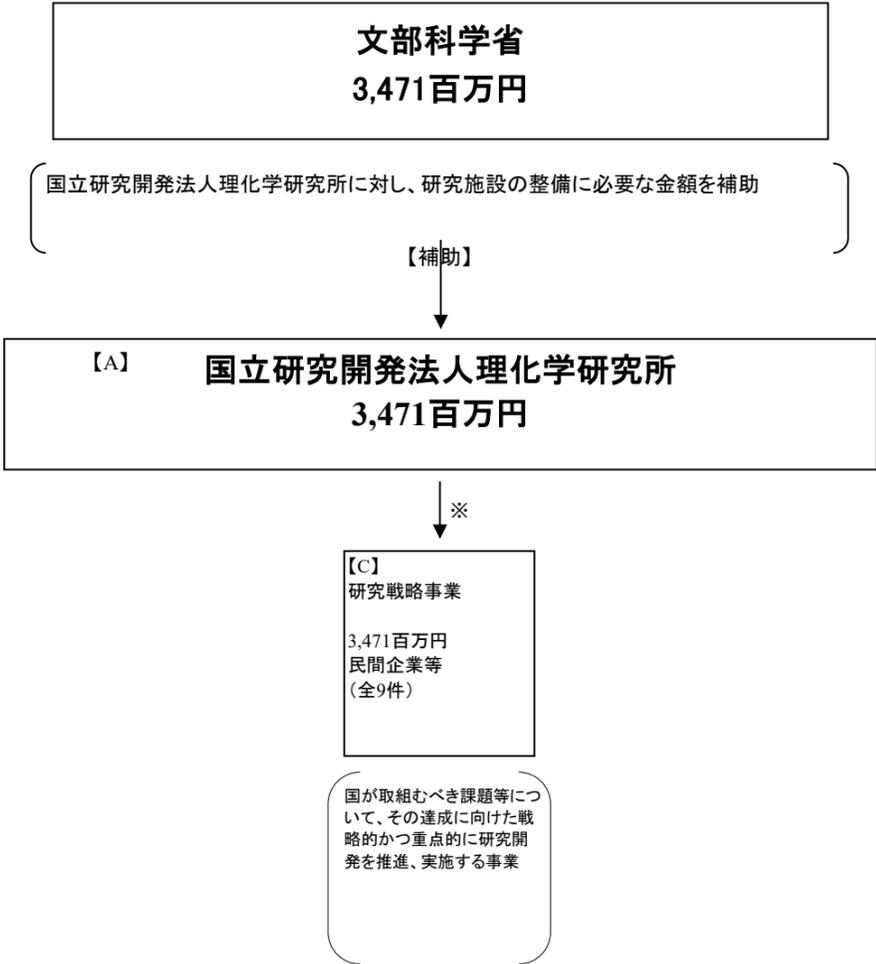
事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	当事業は、国家的・社会的ニーズを踏まえた戦略的・重点的な研究開発の推進に貢献している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	イノベーションの苗床となる多様な基礎研究を行うといった事業目的を達成するためには、国から一定の財政支援を受けた国立研究開発法人が当該事業を実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた政策の実施に必要であり、政策の優先度が極めて高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	理研は世界最高水準の研究開発を実施しており、調達する物品等について世界最高性能や高度な技術を要するため、案件ごとの応札可能者が極めて少数になる場合があるものの、仕様書の内容の見直し、予想される競争参加者への積極的な周知、入札参加要件の緩和、入札公告をホームページに掲載するだけでなく入札情報に関するメールマガジンの配信等の諸施策を通じ、一者応札低減に向けた取組を実施している。 また、契約審査委員会において少額随意契約を除く全ての競争性のない随意契約について、事前に随意契約理由の妥当性について審査を行い、適正性・透明性の確保に努めている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は理化学研究所の設置する研究所施設の整備充実を図るため、研究所が行う研究所施設の整備(災害復旧を含む)に要する経費に対して補助を行い、もって科学技術に関する試験及び研究等の業務を総合的に行うことにより、科学技術の水準の向上を図ることを目的とする事業であり、負担関係(国側の負担)は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	事業目的に即し、合理的かつ真に必要なものに対して支出が行われている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	競争性の確保に努めるとともに、費目・使途は合理的かつ真に必要なものだけに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	工事計画の一部に再検討を要したため繰越を行ったところであるが、適切な手段を経て計画的な予算執行を行っている。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	原則、一般競争入札を行うとともに、汎用的な研究用消耗品については単価契約の締結を促進するなど、経費の効率化に取り組んでいる。また複数の契約案件を適切な単位でまとめて契約するといった取組でも業務の効率化につなげている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	中長期目標の達成に向け、着実に実績を挙げている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	原則、一般競争入札を行うとともに、汎用的な研究用消耗品については単価契約を原則化するなど、経費の効率化に取り組んでいる。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	中長期目標の達成に向け、着実に実績を挙げている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	一般の機関では導入が難しい先端的な施設及び設備について共用を促進していることや研究成果等のデータベースの整備を着実に進めていることから、施設や成果物の十分な活用がなされている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号	事業名	
備考			
<p>【行政事業レビュー】(平成22年度) ・契約に係る透明性・適正性の検証(独立行政法人理化学研究所(SPring-8)の運營業務) (結果)事業の効率化、成果公開優先利用枠の拡大を含めた自己収入増、外部有識者も交えた外部委託等の運営体制のあり方を検討 ※施設整備費補助金のうち、放射光研究施設整備費が関連 【支出先上位10者リストの落札率について】 同種の他の契約の予定価格を類推されるおそれがあるため、又は研究所の事務若しくは事業に支障を生じるおそれがあるため一部非公表。</p>			

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度	267			
平成24年度	282			
平成25年度	196			
平成26年度	194			
平成27年度	185			
平成28年度	174			
平成29年度	185			
平成30年度	185			
令和元年度	文部科学省 -	0177		
令和2年度	文部科学省	0178		
令和3年度	2021	文科	20	0192

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



※事業所全般にかかる施設整備等、決算上複数のセグメントに按分計上される契約案件については、主たるセグメントにおいて整理している。

※: 端数処理の都合上、「費目・用途」の金額と一致しないことがある。

費目	A.国立研究開発法人理化学研究所		B.		金額 (百万円)
	用途	金額 (百万円)	費目	用途	
施設整備費補助金	工事費、付帯事務費	3,471			
計		3,471	計		0
費目	C.三機工業株式会社		D.		金額 (百万円)
	用途	金額 (百万円)	費目	用途	
工事費	脳科学中央研究棟改修1期機械設備工事	1,011			
工事費	脳科学中央研究棟改修1期電気設備工事	442			
工事費	脳科学中央研究棟改修2期機械設備工事	312			
工事費	電気機械棟熱源更新2期電気設備工事	59			
計		1,824	計		0

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

